テーマ：デジタルツール活用による看護実践力向上と学生の成長を支える DX の取組

1） カテゴリー：③教育方法

2） 学校概要：七尾看護専門学校　石川県七尾市なぎの浦 156　3 年課程

　　1 学年定員数：40 名　就業年限：3 年



災害を越えて、未来をつなぐ看護教育

2024 年 1 月の能登半島地震。被災によって登校困難となった学生たちのために、七尾看護専門学校は即座に Google Classroom や Zoom を活用し、オンライン授業を再開。「学びを止めない」強い意志のもと、災害対応と教育継続を両立しました。

本校の教育理念は、**「生命の尊厳と高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を養い、看護学及び保健・医療・福祉の発展に貢献できる看護実践者の育成」**。この理念の実現にむけて、本校は厚生労働省「看護教育 DX 促進事業」に申請し、採択されました。

電子カルテ「Medi-Eye」、高機能シミュレーターやライブ配信ツールを活用したシミュレーション演習、電子黒板などを導入し、実践的で柔軟な教育環境を整えました。

DX 導入による効果

- 記録作成時間 **約 1/3** に短縮
- ペーパーレス率 **99.69%**達成
- 学生の記録負担感：**78.2% → 28.6%**に軽減
- 臨床判断力の向上：学生の **91%**以上が実感

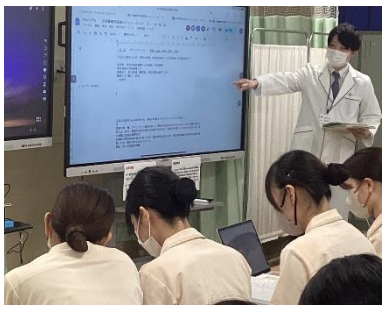




「記録の電子化」だけではない、“人を育てる DX”

私たちが育てたいのは、**主体的に学び、探求し、看護を追求する学生**。導入機器を単なるツールにせず、「どのように育てるか」に焦点を当て、教員間で真剣に議論を重ねてきました。

例えば、Google ドキュメントを用いた振り返りの共同編集や、Classroom アンケート結果を電子黒板に投影するなど、**対話的な学びの設計**にも挑戦。学生たちは、教員の指示を待たずに検索や記録を開始し、ICT を自分の学びに活かす姿が見られるようになりました。



教員自身も「授業に ICT をどう活かすか」「どの機器がどの場面に最適か」を模索し、模擬演習やフィードバックを重ねて現場に即した DX 教育を実践しています。「チーム七看！！」を合言葉に、互いに声を掛け合いながら協力しています。

ICT チームの工夫と挑戦

本校の ICT チームは 3 名。全員が専門職ではなく“素人”スタートですが、わからないことはすぐに調べ、学生や教員の「困った！」に迅速対応できる体制を整えています。

業務改善では、**教員一人ひとりに iPad を支給**し、日常的に ICT に触れる時間を確保。会議は**完全ペーパーレス化**し、議事録や資料の共有はデジタルで実施しています。また、**学内ポータルサイトを構築**し、朝の時間に**学生・教職員間で情報を共有**できる仕組みを整備しました。このような取り組みにより、**必要な情報にすぐアクセスできる環境が整い、業務の効率化と心理的な安心感が大きく向上**しました。

